



君も今日から考古学者！ 横浜発掘物語の軌跡②

企画展余話

小田原宝泉寺蔵「北条三郎坐像」の調査④

—企画展「北条幻庵—横浜・小机城と関東の戦国—」振り返り—

企画展振り返り

横浜市歴史博物館 展覧会ポスター展⑥

横浜の文化財 Yokohama Heritage —まもり伝える地域の歴史⑧

古文書の活用実践 —「みすてりい・おぶ・こもんじょ」展に託した想い—⑨

文化財の調査と指定 令和7年度 横浜市指定・登録文化財展⑨



資料紹介 寿々喜家資料 10

30周年記念誌制作 経過報告 11

館長コラム vol.8 12

大塚・歳勝土遺跡公園だより 14

博物館実習の記録 15

筒形土偶

1. 調査日時(発掘日)
2. 所在地
3. 出土状況
4. 調査者
5. 調査機関

「ペーパークラフト」や「ぬいぐるみ」としても多くの人に親しまれています。
ミュージアムショップへ！

59

ARCHAEOLOGY

君も今日から考古学者!

横浜発掘物語の軌跡

横浜市歴史博物館は令和七年(二〇二五)に開館三十年を迎え、館へはこれまで多くの市内外の皆さんに足をお運びいただきました。その中には授業の一環で来館する小学校六年生も含まれます。本展は先史時代の遺跡や発掘調査、考古学の入門展示として主に小学校六年生の学校見学に合わせて例年の企画展として、新型コロナウイルス感染症による休止を挟んだものの、平成二十七年(二〇一五)より開催してきました。

「横浜発掘物語」の名称は平成十年三月七日から四月十二日に開催した「横浜発掘物語目で見える発掘の歴史」が初出です。この展示は横浜の発掘の歴史から遺跡の発掘とは何か、遺跡・遺物の保存・活用の意味はどこにあるのかなどについて改めて考える趣旨のもと、考古学の初代学芸員が企画・開催しました。

やや一般向けの展示内容ではあったものの、当館で初めて横浜の発掘調査、考古学そのものがテーマの中心として行われたものです(特定の時代や遺跡についての展示は既に行われています)。またデジタル機器の活用や、本物の土器や石器を手にとって調べ体験型の展示も実施しました。五感をとおして歴史を体験する手法は、その後の当館の展示でも数多く行われています。

筆者は当館の考古学の五代目学芸員となり、歴代の考古学の学芸員も「たのしい考古学」(平成十四年七月二十七日から九月十六日)、「おながすいたはらぺこだつ〜縄文時代のごはん〜」(平成十七年七月十六日から九月四日)、「絵でみる考古学 早川和子原画展」(平成二十年四月五日から五月十八日)、「考古学ってなに?」(平成二十二年四月十日から五月二十三日)といった、子どもたち向けの考古学の企画展を開催してきました。今回の展示に直接つながるのは、平成二十七年四月四日から五月二十四日にかけて開催した「横浜発掘物語2015」です。タイトルは先述のとおり、当館で初めて横浜の発掘調査や考古学そのものをテーマとした「横浜発掘物語目で見える発掘の歴史」に敬意を表して付けました。展示タイトルに君も今日から考古学者!が付くのは翌年からとなります。メインのターゲットは社会科の授業で見学に来館する小学校六年生として、四代目の学芸員と相談・協力の上、六年生が多く見学に来館する四月から六月を中心に会期を設定しました。毎年来館する六年生は

入れ替わるので内容を担保するために、テーマや資料について大きくは変更しないパッケージ化した展示を毎年実施することを目標として設計しました。

平成二十七年・二十八年の二回の展示を経て、現在の展示構成に近い形となったのは、四代目学芸員が中心に計画した平成二十九年四月四日から六月十一日開催の「君も今日から考古学者! 横浜発掘物語2017」です。発泡スチロールの小さな塊を土に見立ててケースにひとつずつ入れてもらうことで土の堆積を学ぶ「遺跡が埋まる?」、横浜市内の遺跡が表示された大きな地図から自分の家や学校の場所にシールを貼ってもらうことで、遺跡が身近にあることを知ってもらう「ご近所の遺跡をさがそう!」、土器の欠片と復元された土器をそれぞれ観察してスケッチし気付いたことをワークシートに記していく「土器のかけらをひろったよ!」など、体験しながら考古学について学ぶコンテンツの充実化を図りました。その後はこの展示を基準として構成を組み立てました。

折しも同年の学習指導要領改訂により令和二年には小学校の授業は新たな指導体制に移行することが報じられ、六年生の社会科が春に大昔の歴史を集中して学ぶわけではなくなりました。その後の新型コロナウイルス感染症の拡大や開催する企画展の都合などもあり、本展を一時取りやめていたものの、令和五年春より再開しました。令和七年は開館三十周年記念特別展の関係で夏休み期間中の開催となりました。再開後三年間の様相から学習指導要領の改訂などの影響で必ずしも春に実施しなくても良いこと、企画展に限らない方法でコンテンツを活用していくことなどの意見もあり、横浜発掘物語の名称での十回目(平成十年含む)を以って、企画展示室での開催を終了することとしました。実際に体験をしながら考古学や遺跡について学ぶコンテンツは別の形で継続して展開してまいります。楽しみにお待ちください。



体験の例「遺跡が埋まる?」

(文 橋口豊)

歴代 チラシ



▶展覧会に行く
令和8年
4月18日(土)~6月21日(日)
▶休館日
月曜日(ただし5月4日は開館)、5月7日(木)

小田原宝泉寺蔵「北条三郎坐像」の調査

企画展「北条幻庵―横浜・小机城と関東の戦国―」開催に向けて行った資料調査についてご紹介します。

企画展「北条幻庵―横浜・小机城と関東の戦国―」開催に向けて行った資料調査についてご紹介します。

戦国大名北条氏の初代・伊勢宗瑞（北条早雲）の四男・北条幻庵（宗哲）は、兄で二代当主の氏綱の死後、最長老として一門衆を支えるなか、自身の息子や養子たちを小机城主に就かせ、小机領（市域及び川崎市域）の支配を任せました。

この小机城の初代城主は、幻庵の長男・三郎です。「三郎」とは仮名で、実名はわかっていません。生年も未詳ですが、弘治二年（一五五六）には北条家御一家衆の一人として家臣を率いており、永禄二年（一五五九）成立の『小田原衆所領役帳』では「小机衆」の筆頭になっていることから、十六世紀半ば頃までには父・幻庵から家督を譲られ、一軍の将として活躍を始めていたことが分かります。しかしその矢先の永禄三年（一五六〇）七月二十日、三郎は死去してしまいました。折しも数年連続く飢饉の被害が深刻さを極めるなか、五月には今川義元が桶狭間の戦いで敗れ、八月には長尾景虎（後の上杉謙信）が越後国から関東に侵攻するという、激動の年でした。

三郎の菩提寺は、小田原市風祭にある永禄山宝泉寺です。宝泉寺の寺伝では、幻庵の父・伊勢宗瑞（北条早雲）の菩提寺である早雲寺（箱根町）の二世・大室宗碩を開山に、「北条時長」を開基として創建されたといわれ、創建年が三郎の没年に相当すること、幻庵が宝泉寺を保護していること（註1）、また開基像「絹本着色北条時長像」（宝泉寺蔵、小田原市指定文化財）の描写などから、時長こそが三郎であると考えられています（註2）。

宝泉寺の本堂には、本尊に向かって左側に、北条三郎坐像が祀られています。展覧会で小机城主・三郎を紹介するにあたり、是非このお像も展示させていただきたいとご住職にお願いしたところ、調査および展示のご快諾をいただきました。

令和七年（二〇二五）八月二十九日（金）、厳しい残暑のなか、小田原城天守閣の学芸員・岡さんと大貫さん、写真担当の市毛さんの三名にご協力いただき、宝泉寺ご本堂で北条三郎坐像の調査を行いました。まずはご内陣の壇上から三郎像をそと下ろし、全体を筆の穂先でやさしくクリーニングをしていきます。像高は四十六・四cm、幅は四十八・四cm、奥行二十八・八cmで、高さ六・八cmの台座に鎮座していました。像と台座は膠状のもので簡易に貼り付けてあり、それをはずすと、像底と台座の上面・底面にそれぞれ墨書が

あって、①明治二十五年（一八九二）十二月に石川県金（沢脱か）市住人の谷乗政という人物が彫刻したこと、②宝泉寺十三世・賢峰宗温の代に造られたこと、などが書かれていました。制作時には先述の「北条時長像」を参考にしたり考えられますが、衣服の文様にはあえて三つ鱗紋を施して、北条氏の関連寺院であることを強調しているように思われます。

クリーニングを終え、各部の傷みや破損状態を確認したあとは、いよいよ写真撮影。角度を変えて何枚か撮影をし、お像をもとの場所に戻して、約半日にわたる調査は終了しました。今回調査したお像は明治時代のもので戦国時代と直接は関わりませんが、なぜ明治二十五年に三郎像を造像したかも分かりません。けれど、明治という新しい時代に、地域の由来を顕彰するなかで、宝泉寺の開基・三郎に注目が集まっていたのかもしれない。

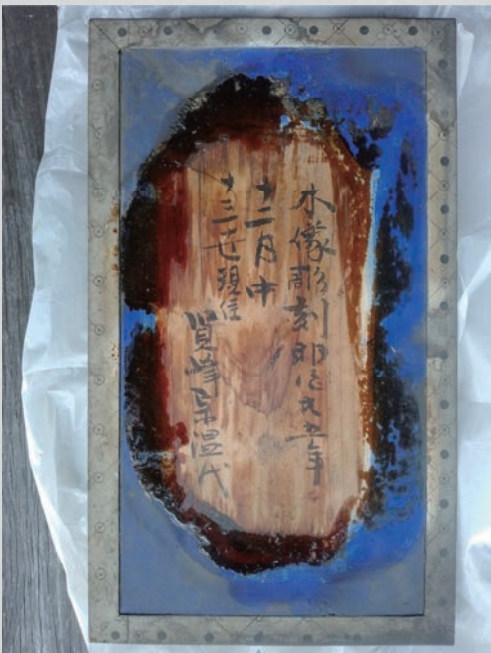
（文 阿諏訪青美）



宝泉寺 北条三郎坐像 明治25年(1892) 小田原城天守閣写真提供



クリーニングの様子 宝泉寺写真提供



北条三郎坐像台座上面の墨書

◆会期◆
令和7年11月22日(土)～令和8年1月18日(日)

註1・「宝泉寺寺領図」（元龜三年〔一五七二〕、小田原市指定文化財、宝泉寺蔵）では、幻庵が宝泉寺の寺領を拡大したことを示し、その境界線上に印判を押している。この年は三郎の十三回忌に当たる。

註2・平成三十一年（二〇一九）に指定。三郎の従兄にあたる北条氏康の肖像画に似ていること、右手の中啓や畳べりの表現も同様であることが指摘される（図録『馬をめぐる武将たち』、馬の博物館、二〇一七）。ただし三郎の実名が時長であるかは不明。

横浜市歴史博物館 展覧会ポスター展

会期 令和7年1月31日(金)～9月7日(日)
会場 横浜市歴史博物館 2階廊下

一九七〇年代から九〇年代の時期、全国に美術館・博物館が多く建設されました。これらの施設の多くは近年、老朽化に伴うリニューアルや、設備改修、再編が進んでおり、多分に漏れず、横浜市歴史博物館も、昨年開館三十周年を迎え、大規模リニューアルはないものの設備改修にともなう休館を何度か繰り返しています。そんななか開館記念日にあたる令和七年(二〇二五)一月三十一日から九月七日まで、博物館の二階廊下で「展覧会ポスター展」を開催し、ポスター以外にも、現在の博物館ロゴマークのデザイン募集のチラシや、開館当時の様子を伺える資料を展示【写真①】、加えて三十周年を節目に、「これからの博物館にのぞむこと」として、会期中来館者に付箋を貼ってもらい「意見をいただきました【写真②】」。

「入館料」「企画展」「イベント」「体験型の展示」「休憩スペース」「博物館閉じないで」「感想・その他」という具合にご意見をいただきました(詳細については左ページの表をご覧ください)。なかでも、「閉館しないで」というお言葉が結構多かったこと。来てくださったお客様は、何をどう、どこを見てそう感じたのか一人ずつお聞きしたいですが、とても複雑な気持ちにもなりました。確かに常設展示室は三十年間一度もリニューアルされず、映像モニターも使用不可の状態のものが目立ち、手すりやハゲ、傷が目立つケース、ちよくちよく変えてはいるものの展示パネルの写真は色褪せ…。多言語の解説アプリを活用し、スマホやタブレットから映像をみられる工夫、ボランティアによるポイント解説など、工夫はしていますが、見学に

来た市内の小学生やお客様に申し訳ないと感じることもあります。とはいえこのような来館のお客様からいただいた生の「声」を少しでも知ってもらいたいと思い、できれば生の言葉(集まった付箋)を見て欲しいところですが、内容ごとに分類しまとめましたので、ご紹介します。

もちろん、イベントについて「今もすぐいいと思います」というご意見や、「素晴らしい展示」「たのしかった」、「これからも頑張つて」など、前向きなエールもたくさんいただき、とても励みになりました。博物館を好きでいてくださるお客様の声や、今後の企画展に望むこと、シヨップにこんなグッズが欲しいといった刺激もあり建設的なご意見もたくさんありました。いただいたご意見を参考に、みなさんにより一層楽しんでいただける博物館となるよう、これからも取り組んでいきます。

(文 吉井大門)



写真① 開館当時の資料



写真② 来館者のご意見付箋

体験型イベントの要望 *37件

- ▼周囲に保育園や幼稚園もあるので未就学児童が遊び学べるような体験展示がほしい(ボールプールとか)
- ▼触れるものを増やしてほしい
- ▼直接触れ合えるコーナーを増やしてほしい
- ▼遊びながら(体験)歴史を学べることを作ってほしい
- ▼化石を触ってみたい
- ▼触ることのできるコーナーをもっと増やしてほしい
- ▼自分で発掘できるコーナー作ってほしい
- ▼色々さわって遊べることを作ってほしい
- ▼電車の体験をやってほしい
- ▼展示物全部さわられる展示にしてほしい
- ▼触れるものを増やしてほしいです
- ▼視覚障害があっても楽しめる展示があるとうれしいです
- ▼工作体験がしたい
- ▼体験できる場所を増やしてほしい
- ▼体験できるものを増やしてほしい
- ▼触れるものがほしい
- ▼体験型の展示があるといいな
- ▼もっとさわられるものがあられほしい
- ▼土のお皿を触りたい、火起こし体験などやりたい
- ▼いろいろな体験ができるように
- ▼ワークショップを増やしてほしい
- ▼土日に子供が参加できるワークショップを増やしてほしいです
- ▼体験展示を増やしてほしい
- ▼触れる展示など体験型の展示がある子供も楽しめる
- ▼体験展示を増やしてほしい
- ▼ふれあい体験がほしい
- ▼触れる展示が増えて、壊れた映像をなおしてほしい
- ▼触れる展示が多くなりますように
- ▼触れるものをもっと増やしてほしい
- ▼体験型がほしい
- ▼触って実感できるものがほしい
- ▼触れるものを増やしてほしい
- ▼展示物の本物を増やしてほしい
- ▼体験を増やして触ったりしたい
- ▼体験できるものをもっと増やしてほしい
- ▼体験するもの触れるものを作してほしい
- ▼あそぶところがほしい

常設展への要望 *69件

- ▼最新の技術を取り入れてほしい
- ▼壊れたボタンを直して映像が見られるようにして(6件)
- ▼ボタンを増やして(2件)
- ▼一つのボタンを押したらすぐに次のボタンを押せるようにしてほしい
- ▼常設展のリニューアル(4件)
- ▼近現代の展示を増やして(4件)
- ▼ジオラマを増やして(4件)
- ▼地形の変化をジオラマで教えてほしい
- ▼江戸時代のジオラマがすごく面白い
- ▼いろんな時代の蠟人形がみたい
- ▼その時の時代をのくらしを再現してほしい
- ▼展示物を増やして(7件)
- ▼土器パズルの常設・大会開催(5件)
- ▼歴史に関するゲームやクイズを増やして(4件)
- ▼歴史劇場を復活させて(4件)
- ▼はにわの展示を増やして(6件)
- ▼歴史についての詳しい説明や解説
- ▼もっと地元よりの地方豪族についてみたい
- ▼横浜の歴史、人の営みの継続した記録と伝承
- ▼横浜の歴史や地名など詳しく知りたいです
- ▼世界史も知れるような常設展がいい
- ▼恐竜の化石を展示して(2件)
- ▼縄文土器のパネルがほしい
- ▼もっと子供にわかりやすいようにしてほしい(絵とか)
- ▼海外の方も楽しめるように多言語の併設
- ▼昔の写真の展示を増やしてほしい
- ▼昔から今への変わり方をもっと知りたい
- ▼今と昔を比べた図的なものをつくってほしい。
- ▼バスの歴史が知りたい
- ▼展示物を寄贈してほしい
- ▼展示物を寄贈してほしい
- ▼スタディサロンを広げてほしい
- ▼施設改修は予算を獲得、工期を分割せず一気にやってほしい。休館期間が少なく済む

感想 *50件

- ▼とても味を感じる素晴らしい展示
- ▼これからもがんばってほしい
- ▼れきしをつくって
- ▼はくぶつかんおもしろい
- ▼ずっとずっと私たちに歴史を届けてほしい
- ▼これからもつないでいて
- ▼お客さんが増えてますように
- ▼子どもへ深い洞察と気付きをもたらす有益な施設。考古の果てで君は何を見つけ出すのか
- ▼小さいころからお世話になっています。これからもなくならないでほしいな
- ▼横浜をみせていただくため何回も訪れたいです
- ▼歴史は大事形だけは残して
- ▼絶対また来る! たのしかった
- ▼ギャラリートークとても好きです。子供たちが関心を持ってそうな企画を是非
- ▼横浜を好きになってほしい!
- ▼変わらないでいてほしいです!!
- ▼市民の皆さんや外から見学に来た人たちに、この地域が受け継いできた歴史をずっと伝えてほしい
- ▼土器迫力がすごかった。縄文弥生サイコー!
- ▼こんなに学びを得られる施設はもっと広めべき
- ▼これからも頑張つて続けてください
- ▼博物館たのしい
- ▼簡単からちょっと難しいまでたのしめた
- ▼もっと楽しく
- ▼いろんなスペースにいろんな展示がほしい
- ▼たのしかった
- ▼たのしい!
- ▼アサリがおいしそうだった
- ▼勉強になった
- ▼もっと楽しくしてください
- ▼また来ます楽しみにしています
- ▼博物館好き
- ▼歴史博物館楽しかったよ
- ▼あそぶところ
- ▼たのしかった
- ▼来たのはじめて
- ▼涼しくて
- ▼もう少し涼しくしてほしい
- ▼もっと楽しい博物館にしたい
- ▼もっとPR活動を
- ▼ポスターを見て残念又来たかった
- ▼素晴らしい展示ですもっと広報したほうがよいです
- ▼27年間都筑区在住で初めて訪問しました。自分の地域の知らない歴史、興味深かったです。これからも継承
- ▼これからもいっぱい展示を作っていて
- ▼歴史もっと知りたくなった
- ▼楽しかったです
- ▼ママと車で来たよ楽しかった
- ▼いつもありがとう
- ▼遊んで学んで楽しいところになってほしい
- ▼いい博物館になってほしい
- ▼歴史おもしろい
- ▼ぬりえのしゅるいがもっとほしい

休憩スペースなど *12件

- ▼ベビールームやキッズスペースなど未就学児も楽しめる場所やイベントを開催してほしい
- ▼資料を見ながらご飯を食べられるカフェがほしいです
- ▼飲み物が飲める休憩スペースがほしいな
- ▼飲み物が飲める休憩スペースがほしいです
- ▼自販機のラインナップかえて
- ▼自販機のラインナップ増やして
- ▼カフェ復活を
- ▼カフェ復活してほしい
- ▼カフェを作ってください
- ▼カフェを再開してほしい
- ▼カフェを作ってください

※一部、同様の内容のご意見をまとめて掲載いたします。

イベントについて *9件

- ▼今もすぐいいと思います。がもっとイベントや誰かがワクワクすることをやるともっといいと思います
- ▼地域住民と触れ合える場や歴史について講演を行う場をもっと増やしてほしい
- ▼ミュージカルをたくさんしてほしい
- ▼民話や怪談話などを基にした劇や上演
- ▼子供向け体験イベント開いてほしい
- ▼お笑い芸人の「笑い飯」に歴博のアンバサダーとしてネタをやってもらいたい
- ▼原始～現代までの歴史・背景をまとめた小規模映像を作成してほしい
- ▼ユーザーバーとのコラボ
- ▼いろんなイベントやってほしい

閉館しないで *52件

- ▼閉館しないで、とりこわさないで、なくならないで等

シヨップへの要望 *12件

- ▼はらでぐちくんのグッズが沢山ほしい
- ▼レックルの着ぐるみのキットがほしい
- ▼はらでぐちくん醤油さがほしい
- ▼はらでぐちくとレックルのグッズ展開を幅広くしてほしい
- ▼レックルのぬいぐるみがほしい
- ▼戦国時代グッズがほしい
- ▼レックルのキーホルダーがほしい
- ▼勾玉の種類がもっとほしい
- ▼パンフレットで家へ帰ってもふりかえれる学べるものが欲しい
- ▼はらでぐちくんの置物がほしい
- ▼はらでぐちくん、レックルフィギアがほしい
- ▼お土産グッズが少ない

企画展への要望 *12件

- ▼もっと企画展を開催してほしい
- ▼はらでぐちくんを色々集めた展示と土器の大きさ比べの展示がみたい
- ▼戦国時代頃の展示を詳しくしてほしい
- ▼時間の流れを実感できる企画展を構想してください
- ▼郷土史やマンガ史と絡めた展示、紙芝居の展示
- ▼特別展これからも続けて
- ▼弥生時代に関わる企画展
- ▼横浜とキリスト教やイスラム教などたくさんの宗教との関係について知りたい
- ▼修復・保存・継承をテーマにした展示を定期的で開催してほしい
- ▼恐竜の化石展
- ▼日本常民文化研究所との企画展を開催してほしい
- ▼大紙芝居展

料金について *11件

- ▼特別展のチケットで常設展がみられない
- ▼値下げ
- ▼値下げ値下げ値下げ
- ▼無料
- ▼値上げ
- ▼入料を無料にしてほしい、お願い
- ▼チケットの値下げ
- ▼無料にしてほしい
- ▼月曜休館にしないで
- ▼月曜日でも休まないようにお願いします
- ▼無料

横浜の文化財

—まもり伝える地域の記憶—

Yokohama
Heritage

Part1「修復」
令和7年4月26日(土)▼6月2日(月)
Part2「伝承」
令和7年6月14日(土)▼7月27日(日)



Part1 展示風景

本展では、当館が開館以来かかわってきた市域の文化財を、それぞれ「修復」、「継承」というテーマのもとで紹介しました。学芸員総勢八人がかわり、議論沸騰、紆余曲折を経た(?)結果、考古・歴史・民俗・美術の各分野から厳選した実物資料が一堂に会する、当館らしい展覧会になったと思います。

それぞれの文化財にまつわるエピソードを大きなパネルで詳しく紹介する一方、キャプションは簡潔で親しみやすい説明とするなど、幅広い年代の方々にお楽しみいただけるよう、解説も工夫しました。出口では出陳文化財の人気投票を行いました、当館イチ押し「はらでぐちくん」(原出口遺跡出土筒形土偶)が栄えある一位を獲得しました。図録にもこだわり、Part2の図録では会場写真や学芸員全員のコラムを掲載しました。

本展の根底には、横浜には地域の歴史の記憶を宿す文化財が多数残っていること、そしてそれをまもり、未来へつなげていくことの大切さを伝えたいという思いがあります。博物館ではこれからも、地域の記憶をまもり伝える活動を続けていきます。

(文 小林紀子)



Part2 展示風景

古文書の活用実践

—「みすてりい・おぶ・こもんじょ」展に託した想い—



「みすてりい・おぶ・こもんじょ」
会場写真

本展では、当館の収蔵資料を中心に、これから古文書を学びたいと考えている方に向けて、古文書の入門から、その先の活用の可能性までを紹介しました。

本展を企画するにあたり意識したのは、「くずし字＝難解で特別な文字」というイメージを、ほんの少し揺さぶることでした。古文書という言葉を聞くと、「読めない」「専門家だけのもの」と感じる方は少なくありません。しかし、私たち日本人は、そう遠くない時代まで、くずし字で日記を書き、手紙を送り、暮らしの出来事を書き留めてきました。

本展では、くずし字を完全に理解することを目標とはしませんでした。むしろ、「思ったより身近だった」「少しなら自分にも読めそうだ」と感じてもらうことを大切にしました。「みすてりい・おぶ・こもんじょ」というタイトルには、謎解きのような楽しさと、その先にある発見の喜びを味わってほしいという願いを込めています。本展が、古文書の世界への小さな入口となっていれば幸いです。

(文 仲泉剛)

同時開催 会期：令和8年1月31日(土)→3月15日(日)

文化財の調査と指定

令和7年度 横浜市指定・登録 文化財展

当館では毎年新たに指定された横浜の文化財を紹介しています。「文化財の指定」というのは、地域の歴史に関わる貴重な文化遺産が失われないよう次世代に伝えていくための仕組みです。とくに重要だと評価されたものを国や自治体が指定し、永続的に保存していけるよう取り組んでいます。横浜市で指定文化財を選んでいるのは、専門家の先生たちが集まる「横浜市文化財保護審議会」という組織ですが、評価をするにはまずは市内にどのような文化財があるのかという情報が必要で、情報を集めるためには「調査」をしなければなりません。本展では、調査の様子を紹介するため、市内寺院で行った仏像の調査現場の写真を掲載しました。写真はその一部で、手に持っているのは仏像各部の大きさを測るための道具のひとつです。調査では仏像の顔の両耳間の距離というような細かなところまで計測します。そのほか形の特徴や材質・構造を記したものが市内文化財の情報として蓄積され、指定や展示へとつながります。

(文 花澤明優美)



文化財調査の様子

地域の和菓子屋、洋菓子屋として、小学校行事の際の紅白饅頭や、祝儀のお菓子、祭りの赤飯など、地域にかかせない存在であった菓子店「寿々喜家」（横浜市西区平沼）。創業明治三十三年（一九〇〇）とされる和菓子洋菓子店で、先代までで四代続いた菓子店でした。菓子店としての営業以前についても、もともと代々商売をしていた家（魚屋、パン屋、和菓子屋）で、福富町で魚屋を営んでいた寿々喜家初代が今の寿々喜家のある平沼橋にてパン屋を創業。二代目が現在までの礎となる和菓子をはじめ、三代目になって東京青山の菱屋で洋菓子製作を修業、菱屋の名物であったシナモンドーナツを寿々喜家にて販売（「シナモンドーナツ」、寿々喜家の名物商品になるとともに和菓子と洋菓子の両方を本格的に扱う菓子店となりました。また、和菓子で「上生」「上菓子」「上練り」などと言われる白餡に求肥や芋のつなぎで作られる練り菓子も扱っていますが、「シナモンドーナツ」を単価百円で販売しているように、手に取りやすい価格で多くの人に食べてもらいたいという思いのもと、菓子類の販売をしていたといえます。ほかに「ひなあられ」や「菱餅」、「桜餅」、「柏餅」、「クリ



スマスケーキ」など季節の菓子や、「どら焼き」、「饅頭」利休、「平沼そだち」、「みたらし団子」、パウンドケーキ「ガトーポム」、「最中」など、生活や地域と密着した「マチのお菓子屋」でもありました。また、四代目の鈴木昌次氏は平成二十八年（二〇一六）の平沼小学校六年生の総合学習の一環として、児童たちが考案した和菓子を、卒業の思い出と一緒につくるための協力や講師をつとめるなど（児童たちが考案した練り菓子「平沼日和」は期間限定販売された）、地域教育活動にも参加されていました。



平沼小学校六年生総合学習「寿々喜家さんの魅力」より

店を継いだ四代目が、三代目より洋菓子づくりの技術を教わったことや、自身が菓子専門学校で習ったことなどを活かしての菓子作り、店の運営・経営などを母親と共に切り盛りしていましたが、令和六年（二〇二四）二月に急逝。後継者などいなかったため店を閉めることになりました。

明治末から現在まで続いた和菓子洋菓子店としての歴史的な意義もさることながら、これだけまとまった和菓子洋菓子製作に関する資料はこの資料群自体が貴重であるといえ、横浜の菓子文化、民俗を考えるうえでも貴重な資料となっています。（文 小林光一郎）

オープンから三十年を迎えた横浜市歴史博物館は、令和七年（二〇二五）一月以降、三十周年記念を冠した講演会や展覧会を行ってまいりました。そして現在その最後の事業として、記念誌制作に注力しています。

一年前、担当者が集まり編集方針を決めました。三十年を十年ごとに区切り、開館からの十年、指定管理者制度による運営が始まった次の十年、街並みがほぼ完成し地域社会が大きく変化した十年、それぞれを緩やかに三つの時期にわけて、館の活動の記録をまとめることにしました。過去を振り返るだけでなく、次世代の職員や関わっていただく人々にその思いをつなぎながら、新たな博物館活動を展開していけるような、そして、地域の人が見て楽しめるような記念誌を思い描いています。

三十年の活動は、年報や事業報告に記録されているものの、記録写真は一か所にまとめて保存されておらず、ネガフィルムやプリントされた写真が館内各所に仕舞われていました。また、二〇〇〇年代頃より使われ始めたデジタルカメラの写真も、あつたりなかったり、という状況でした。写真を探しつつ、まずはネガフィルムや紙焼きプリントを確認しながら、デジタル写真以前のフィルムをス

30周年記念誌制作 経過報告

▼オープンチラシ
博物館前で竹とんぼ。センター北駅が見える！（平成7年2月）



▲かつての記録写真のフィルムをスキャンする作業

開館当時の聞き取り▶
（オープン記念で制作したテレフォンカード、ポケットティッシュを前にして）

キャンすることから始めました。昨夏から始めた作業では令和八年一月末までに、およそ七千七百カットの膨大な記録写真データとして蓄積され、現在も継続中です。「博物館の窓から見える景色が全く違う！」「こんなこともやってたよね〜」驚きや懐かしい思いと、この中からページの中におさめる数点を選択しなくてはならない悩みです。

当時を知る職員に、話を聞く機会も積極的につくり、様々な聞き取り活動も行っています。収穫は大きなものになる一方、日ごとに増える情報量を予定する百二十ページの中に収めることができず、心配はつきません。しかし、当館で活動する関連団体や当館に関わりのあった方々から寄せられた原稿からは、様々な「エッセンス」を読み取ることができ、記念誌が完成した折には、当館や街の三十年分の歴史を大いに感じてもらえるものと思っています。

担当それぞれが通常業務をこなしながらの編集作業は、思うように捗らず、もどかしいばかりではありますが、近日中に皆さまにホームページから見ていただくように進めていきます。

※『横浜市歴史博物館三十周年記念誌』はホームページにてPDF刊行の予定です。（文 古川恵美）

Coming soon!!

市民協働と 博物館の 応援団

館長 佐藤 信

昨年、横浜市歴史博物館は開館三十周年を迎えました。平成七年（一九九五）一月三十一日に開館してから、資料収集や調査研究、またさまざまな特別展や企画展などの博物館活動を進めてきました。その活動のあゆみは、三十周年記念誌に掲載されますので、ぜひご覧ください。

さて、当館の活動の特徴の一つに、市民とともに歩んできたことがあげられます。改めて振り返ってみたいと思います。

展示解説ボランティア

博物館の開館翌年の平成八年三月、大塚・歳勝土遺跡公園が一部開園しました。翌年三月には、旧長沢家住宅を移築復原した都筑民

ティアによる市民協働の取り組みですが、このほかに、市民自らが主体的に組織し、博物館で活動する団体があります。

博物館の講座から生まれた団体

横浜古文書を読む会（以下古文書の会）、横浜縄文土器づくりの会（以下土器の会）、横浜古代史料を読む会（以下古代史料の会）は、博物館が開講した古文書解説教室、土器づくり教室、古代史料購読講座の受講生OBが、より学びを深めたいという趣旨で市民自らが設立した団体です。各分野の学芸員がサポートしながら、定期的な生涯学習活動を進めてきました。その後各団体は博物館と協働し、古文書の会は調査研究での史料の翻刻や外部講師による市民向け講演会、土器の会は土器づくり教室やワークショップのサポートと小学校への訪問授業、古代史料を読む会は外部講師による市民向けの講演会、といった活動を展開しています。

横浜さいかちの会

遺跡ガイドボランティアのOB会として、ボランティア活動の中で得た知識と人間関係をより深めたいという目的で平成十七年にスタートしました。会員の多様な興味や関心を

家園と工房が完成し、大塚・歳勝土遺跡公園が全面開園しました。

この遺跡公園を活用する取り組みの一つとして、平成十年に募集を始めたのが「遺跡ガイドボランティア」です。市民のみならず、力をお借りし、大塚・歳勝土遺跡について学校の団体見学で訪れた子どもたちや一般市民に向けて解説するものです。

弥生時代や大塚・歳勝土遺跡についての座学と現地見学の講座、そして子どもたちや市民に解説するための実地研修を経て、平成十一年四月から活動がスタートしました。ガ



大塚遺跡の高床倉庫で学校団体見学の子どもたちに説明する展示解説ボランティア

深めるために、遺跡の見学会や横浜の歴史にかかわる史跡探訪、博物館の見学など、いくつかの部会を設けて広く活動を進めてきました。のちに現役ボランティアの入会もできるようになり、現在ではその研修に準ずるプログラムや外部講師による市民向けの講座・講演会などを実施し、博物館と協働する取り組みも進めています。

横浜歴博もりあげ隊

名前の通り、当館を盛り上げたいという趣旨に賛同した、ボランティアや各団体会員



歴史未来フェスであじろ編みワークショップを行う横浜歴博もりあげ隊

イドを受けた子どもたちや市民の方からは、熱の入った解説で大塚遺跡や歳勝土遺跡をより詳しく知ることができると好評をいただいています。

平成二十五年には、遺跡公園に加えて常設展示室の解説も行う「展示解説ボランティア」に編成替えを行い、現在は常設展示室と遺跡公園の両方のガイド活動で活躍いただいています。

活動支援ボランティア

四〇七月に学校団体で多数来館する子どもたちへのまじり式火起こしの疑似体験、さまざまなワークショップやイベントでの補助のために、平成二十年四月から活動を始めたボランティアです。当初は試行的に遺跡ガイド登録者やそのOBを対象に参加を募りましたが、活動が来館者からもボランティアからも評価を得たことから、翌年には「事業ボランティア」として広く募集を行い、活動を進めてきました。現在は「活動支援ボランティア」として、体験学習室での「れきし工房」、歴史未来フェスやセンター北まつりなど、博物館内外での事業の実施に携わっています。

これらは博物館が主体的に募集したボランティアの有志で平成二十五年七月に設立されました。当館は、今でも「敷居が高い」と言われることがあります。歴史に興味がある層にも、あまり興味がない層も、当館のファンになってもらえるような取り組みを進めてきました。時期の話題に応じたコアな歴史講演会や、歴史に捉われない子どもたちへのワークショップやパロック・コンサートなど、来館者の間口を広げる市民の視点からの企画を開催しています。

古文書の会は昨年設立三十周年、土器づくりの会は今年三十周年を迎えます。博物館とほぼ同じ時間を過ごしてきた両会をはじめ、一昨年活動二十五周年を迎えた展示ガイドボランティア、一昨年と昨年創立二十周年を迎えた古代史料の会と横浜さいかちの会、そして活動支援ボランティアやもりあげ隊は、多様な活動を展開してきました。博物館の三十年の歩みのなかで振り返ると、これらの市民協働によって進められてきた普及活動や調査研究によって、博物館の活動が幅広く、そして深化してきたことがわかります。

これからも博物館は市民の方々との協働しながら、活動を進めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

博物館実習の記録

突然ですが、クイズです。右の写真は何に使われていたものでしょうか。

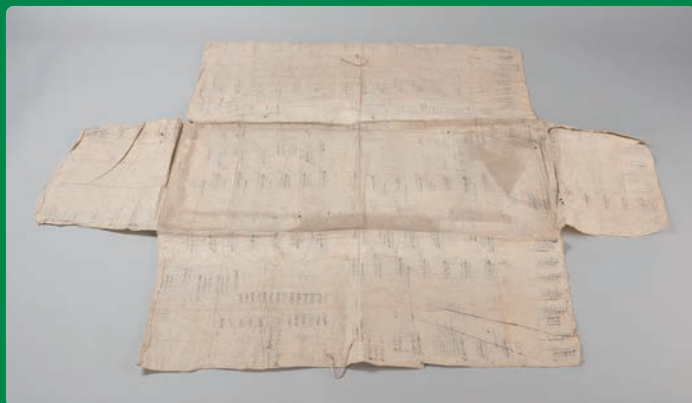
……答えは、着物を包む「たとう紙」です。

しかし、これはただのたとう紙ではありません。よく見ると、墨で文字が記されています。実はこのたとう紙、江戸時代の古文書が反古紙として再利用されていたものなのです。このたとう紙に再利用されていた古文書は、今年度当館30周年特別展「横浜の文化財」Part1「修復」に出陳した資料でもあり、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

この古文書は、江戸時代の戸塚宿の間屋場が記した「人馬日帳じんばひじめちよう」という資料で、戸塚宿で人や馬を雇った通行者——特に武家などの公用旅行者——の名前が書き上げられています。本資料からは、戸塚宿にどのような人々が通行していたのかを具体的にうかがうことができます。

さて、今年度の博物館実習では、このたとう紙に再利用されていた古文書を、元の姿に復元する作業を行いました。作業は、【現状記録】→【剥離】→【洗浄】→【乾燥】→【目録作成】の順で実施しました。

まず、古文書を剥離する前に、記録カードへのスケッチや写真撮影を行い、現状記録を取ります。剥離してしまうと、どこに貼り合わされていたのか分からなくなるため、非常に重要な作業です。



剥離作業の様子

剥離作業では、噴霧器などで水分を与えて糊を溶かしながら、ピンセットや竹べらを用いて慎重に剥がしていきます。一枚剥がすごとに、現状記録用の写真も撮影しました。

剥離作業が一通り終わると、次に洗浄作業に入ります。洗浄は汚れを落とすだけでなく、古文書のシワを伸ばす目的もあります。その後、一昼夜かけて乾燥させ、乾いた資料を一枚ずつ資料保管用の中性紙封筒に収め、目録を作成しました。

資料整理の後は、資料に何が書かれているのかを調査・研究し、当館常設展示室においてミニ展示「はがして発見！—戸塚宿のリアル—」を実施しました。実習生の方々には、資料整理から調査研究、展示へとつながる一連の学芸員業務を体験していただきました。

資料に価値を付与し、それを分かりやすく市民に伝える学芸員業務の魅力を知っていただければ幸いです。

(文 仲泉剛)

大塚・歳勝土遺跡公園だより

大塚・歳勝土遺跡公園は令和8年（2026）に、一部開園してから30年を迎えます。このことから大塚・歳勝土遺跡に関する写真展や講演会などを企画しています。

さて、今回の遺跡公園だよりは少し前の話になりますが、令和7年5月21日に大塚・歳勝土遺跡公園内で実施した地中レーダー探査についてのお話です。地中レーダー探査とは、電磁波を地中に照射してその反射波を計測することで地下の構造物を非破壊で把握するための手法のことです。横浜市歴史博物館の調査・研究事業のひとつ、「大塚遺跡の水田・食糧に関する研究」に関連して、東京大学 総合文化研究科 グローバル地域研究機構 特任研究員の杉山浩平氏と共同で、大塚・歳勝土遺跡公園内の土中遺構について調査を行いました。

今回は大塚・歳勝土遺跡公園内の2か所で地中レーダー探査を実施し、大塚・歳勝土遺跡のより詳細な規模を把握し、今後の調査・研究事業に活かすことを目的としたものです。計測する範囲を決めて、その中をメジャーで一定の大きさの正方形になるように格子を作り、その上を計測していきます。一定のスピードで（速すぎても遅すぎてもダメ）まっすぐにレーダーを引っ張って少しずつ位置をずらしながら何往復もするのは結構疲れましたが、天候が良かったためその日のうちに終了することができました。

調査結果の分析についてはまだこれからですが、分析結果をもとに今後大塚・歳勝土遺跡公園内で試掘調査（全体ではなくて一部分を掘ることで遺跡の特徴を調べる調査方法）を行うかもしれません。もし、皆さんが大塚・歳勝土遺跡公園に遊びに来た時に試掘調査に遭遇した時は「小判はあった？」ではなく「良い土器出た？」もしくは「お宝あった？」と聞いていただければ、大喜びでお答えするかと思います。

(文 橋口豊)



地中レーダー探査の様子

原出口遺跡出土筒形土偶
(当館蔵)

開館30周年記念特別展
「横浜の文化財 Yokohama
Heritage 一まもり伝える
地域の記憶」Part2「伝
承」出陳時のようす



イベントやワークショップ等の
開催については、
当館ウェブサイト、
SNSにて随時お知らせ
していきます！



ウ
エ
ブ
サ
イ
ト

展覧会

- 企画展「君も今日から考古学者！—横浜発掘物語2026—」
令和8年4月18日(土)～6月21日(日)
- 企画展「昭和の時間に包まれる—北原コレクションと所蔵資料—」
令和8年7月4日(土)～8月23日(日)
- 企画展「横浜絵の深層(仮)」令和8年9月5日(土)～10月18日(日)
- 企画展「南武蔵の平安仏(仮)」令和8年10月31日(土)～12月13日(日)
- 企画展「横浜の領主(仮)」令和9年1月9日(土)～2月14日(日)

イベント

- 歴史未来フェス
令和8年5月23日(土)・24日(日)
博物館を中心とするエリアで開催する地域のイベントです。この2日間は観覧料無料！
- 横浜開港記念日特別企画「ペリーと土偶の顔をかこう・ぬろう！」
令和8年6月2日(火)
ペリーの顔や横浜出土の土偶の顔などの塗り絵をご用意します。この日は観覧料無料！
- 毎月最終土曜日開催イベント
おもしろいぞ！紙芝居
横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居の複製を中心に実演します。
れきし工房「まがたま・あじろ編み小物入れ」
キットを使ってオリジナル作品をつくります(事前申込制)。



横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

- 開館時間
9:00～17:00(券売は16:30まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日
月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時休館することがあります。

●常設展観覧料


区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生 横浜市内在住65歳以上	100円	80円

- 企画展・特別展の観覧料は別に定めます。
- 毎週土曜日、小・中・高校生は無料です。
- 横浜市内在住の65歳以上の方は「濱ともカード」など証明できるものをご提示ください。
- 「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」[精神障害者保健福祉手帳]をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳または、スマートフォンアプリ「ミライロID」の手帳画面をご提示ください。
- 補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)とご一緒に入館できます。

会期・開催時間等の予定を変更する場合があります。最新情報はお出かけ前に、当館ウェブサイトまたはお電話にてご確認ください。

- 交通
横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
駐車場あり(30分100円)



 **横浜市歴史博物館**
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1
Tel.045-912-7777(代表) Fax.045-912-7781
<https://rekihaku.yokohama-history.org/>
X @yokorekihaku

横浜市歴史博物館ニュースNo.59 2026年3月31日発行
編集・発行 横浜市歴史博物館
デザイン 株式会社フィールド・ノート、柳原梢子(やなぎ堂)